

## オーディオ資料室収載

### 2025 年の活動を振り返って

毎年の年末には、研究室日誌のページで、その年の音楽とオーディオの活動を回顧してきました。本年も同様に 2025 年の回顧を行います。

2013 年にスタートした本 HP も 12 周年を迎えることになりました。本年も昨年に引き続き、音楽活動やオーディオ活動は新型コロナ感染などに注意しながらの活動となりました。

コンサートは、近隣のホールなど最小限に留め、配信頼りになりました。配信は、本年もベルリンフィルデジタルコンサートホールや STAGE+ の他、東京春の音楽祭、デジタルサントリーホールやその他の配信サイトを昨年に引き続き、再生しています。中でもドイツグラモフォンの配信チャンネル「STAGE+」が主要な音源の位置を占め、各地の音楽祭のライブ収録や過去の歴史的な演奏の収録アルバムなど、豊富で良質のコンテンツに満足しています。また、Spotify はロスレス対応が始まり、音質向上を果たしました。

これらの音質向上には下記の光アイソレーションの導入が、顕著な効果を発揮し、その効果は YouTube にも及び、ショパンコンクールの YouTube 再生などで確認できました。

オーディオ機器では、配信やファイル音源再生などのネットワークオーディオの音質改善のために光アイソレーションの導入を実施し、顕著な効果を認めたことが、本年の最大の成果です。

OPT ISO BOX は、下記のルートに使用して顕著な効果を認めました。

ルーター→スイッチングハブ

スイッチングハブ→DMR UBZ1

スイッチングハブ→Sonica DAC

スイッチングハブ→fidataHFAS1-S10

fidataHFAS1-S10→Sonica DAC

LAN iPurofier Pro は、下記のルートに使用して顕著な効果を認めました。

## スイッチングハブ→PC

配信については、配信音源の特性に対する再生条件の設定の最適化を検討し、配信音源の特性と再生条件の設定と題してオーディオ資料室に掲載しました。また、配信音源の音質向上に伴い、アナログとの比較試聴に着手しました。

オーディオのイベントでは、6月の OTOTEN の配信の受信や第3回真空管アナログ試聴会 2025 および 11月の大坂ハイエンドオーディオショウやオーディオセッション in Osaka やシマムセンの各種試聴会に参加し、最新の情報を得るように努めました。ESOTERIC や SOULNOTE が、イコライザーカーブや位相特性の対応に乗り出したことは注目すべきことでしたが、肝心のイコライザーカーブ対応のデモはありませんでした。

ながらく途絶えていたオーディオ仲間との往来を全面的に復活させ、システムの改善の確認をしていただくとともに、オーディオ仲間のシステムの進展や古今の名盤を聴かせていただく機会もあり、光アイソレーション機器を持参してテストする機会もありました。

オーディオ関係では、引き続き ZANDEN のフォノイコライザ Model120 の活用が進み、バッハその他のバロックやルネサンス朝の音楽のアナログ盤を集中的に試聴しました。アナログ盤や CD や DVD の購入は最小限に留めています。

アナログ再生関係では、LINN LP-12 や Thorens TD124 や Garrad401 も快調に推移しています。特記事項としては、マランツ 7 を借用し、Leak Pont1とともに、それらのトーンコントロールの調整による疑似的に ZANDEN Model 120 のフォノイコライザーカーブに近似させる検討を行いました。

ディジタル関係では、EMT981 と HFAD10-UBX の CD 再生を継続しています。さらに PC ドライブからの DVD 再生を実施し、Brooklyn DAC+周辺の仮想アース、クロック入力、USB アキュライザー経由の USB 入力などの効果を確認できました。

仮想アース関係では、引き続き光城精工の一連の仮想アースの効果を確認して

います。

インフラノイズからの感想文の景品提供やブログで公開した情報にもとづき、CDクリーナー、レコードアンチスタティック、CDアンチスタティック、アームダンパー、フェルトダンプ LAN 端子、AV ドーナツなども継続して使用しています。

オーディオ資料室とオーディオ論壇のページには、フォノイコライザー特性の調査、イコライザーカーブの比較、アナログ再生配線図、CD・SACD・DVD・BD・ファイル音源再生配線図、配信音源再生配線図、スピーカーシステム配線図、配信音源の特性と再生条件の設定、オーディオにおける ChatGPT の活用、オーディオ再生上のやっかいな問題、EQ 特性に関する調査の集約などの資料を掲載しました。オーディオ関係の諸問題の情報入手のために ChatGPT を活用しています。

来年度の目標は、これまでと同様、音楽活動やオーディオ活動を感染対策に留意しながら継続していくことです。変異が繰り返される新型コロナやインフルエンザなどの感染防止に関して重々注意され、新しい年を迎えることを祈念しております。

以上